

電子「ゴミ」から貴金属を再生！

ー東京発、リサイクル・リユース技術をバングラデシュへー

国際協力機構（JICA）は11月14日、「中小企業連携促進基礎調査」において株式会社リーテム（代表取締役中島彰良）が提案する「廃電子機器等の回収・金属再資源化事業調査（中小企業連携促進）」（バングラデシュ国）を採択しました。

バングラデシュでは近年、都市部での人口増加や経済成長、国策である「デジタル・バングラデシュ」の追い風を受けたIT産業の活発化に伴い、特に都市部での電子機器類の廃棄量（いわゆる電子ゴミ）が急増していますが、適正な処理について法律で定められておらず、環境汚染の進行が懸念されています。



東京都大田区にある東京工場。
破砕処理能力は864トン/日を誇る。



バングラデシュでの電子ゴミ分別の様子。
手作業で行われていることも多い。

上記のような課題に対し株式会社リーテムは、独自に開発した高性能特殊金属破砕・選別プロセスにより大量の電子ゴミを短時間で効率的にリサイクルする技術に基づき、鉄やアルミ、貴金属の再生と中古部品のリユースを提案しています。また、電子ゴミが収集されずに不法投棄されていることから、現地NGOと共同した電子ゴミ回収のプロセス自体の確立に関しても、今回の調査を通じ検討することとしています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業連携促進基礎調査」として実施されます。本スキームは、優れた製品や技術力を有する中小企業が途上国に進出することによる開発課題解決の可能性及びODA事業との連携可能性を検討するためのもので、検討に必要な基礎情報の収集と海外展開事業計画の策定を目的としています。2014年度は本年7月に公示を行い、61件の応募のうち10件が採択されました。今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。